

## 《特別掲載》東海地区開催 臨時研修のご案内

★2016年6月以降 募集開始予定 ※詳細は別途後日ご案内いたします。

※定例 W グローバルコース群の「WA1 アジアの特許制度」コースを、  
2016年度は東海地区で臨時研修として開催します。

### R10 アジアの特許制度

R10  
とは？

アジアは経済成長過程にあり、日本からの製品輸出や技術移転などの関わりが最も大きい地域であります。それゆえにアジア諸国の特許制度を理解し戦略的に活用して、製品輸出や技術移転などの様々なビジネスに役立てていくことが重要になります。

このコースでは、現在および将来においてビジネス関連の高い中国、韓国、台湾、インド、アセアン諸国を中心に特許制度、裁判制度および模倣品対策等の企業実務上の重要なポイントについて、事例紹介を交えて講義します。

研修会場：愛知県産業労働センター

募集定員：40名

開催日(4日間)		講義課目	講師
9/6(火)	午前	1. 中国特許制度	中国弁理士 関英澤氏
	午後	2. 中国の特許侵害訴訟と権利解釈	弁護士 黒田健二氏
10/18(火)	午前	3. 韓国の特許制度と侵害訴訟概論	トヨタテクニカルディベロップメント(株) 川島道紀氏
	午後	4. 台湾の特許制度と侵害訴訟概論	
11/15(火)	5. インドの特許制度と侵害訴訟概論		
11/15(火)	午前	6. インドネシア、タイ、マレーシア、 その他東南アジア諸国の特許制度および侵害訴訟概論	川島道紀氏
	午後		
12/13(火)	午前	7. アジアでの知財紛争に対する医薬戦略と実務対応 (模倣品対策を中心に)	日本特殊陶業(株) 加藤隆史氏
	午後	8. アジアでの知財を巡る諸問題と実務対応	ダイキン工業(株) 松田淳一氏

#### 1. 中国特許制度 / 2. 中国の特許侵害訴訟と権利解釈

中国の専利法の導入と法改正経緯から知的財産諸事情を概説し、専利法および審査指南に基づき審査制度、審判制度の実務ポイントを解説します。更に、実用新案制度、および拒絶理由の対応策について実務上の留意点などを解説します。

また、中国での知財紛争解決について、解決手段の種別と特長を概説し、その中の訴訟については、その手続きフロー、権利解釈、救済などを事例や経験談を織り交ぜて解説します。

### 3. 4. 5. 韓国、台湾、インドの特許制度と侵害訴訟概論

各国の特許法の導入と法改正経緯から出願・審査・審判状況を概説し、出願プロセス、特許要件、拒絶理由とその対応策、拒絶査定不服審判や無効審判の手続きや留意点などについて、事例や体験談を交えて解説します。

また、各国での侵害訴訟について、法制度や解決手段の種別と特長を概説し、その中の訴訟については、その手続き、権利解釈、注目判例などについて解説します。更に、紛争解決における日本企業の留意点についても解説します。

### 6. インドネシア、タイ、マレーシア、その他東南アジア諸国の特許制度および侵害訴訟概論

インドネシア、タイ、マレーシアに加え、注目すべき東南アジア諸国(フィリピン、ベトナム、シンガポール)の特許制度および侵害訴訟について、特徴的な制度、実務ポイントを解説します。

### 7. アジアでの知財紛争に対する企業戦略と実務対応(模倣品対策を中心に)

アジア諸国の特許侵害や模倣品事情、企業における侵害・模倣品対策のための社内体制、発見・阻止・予防の方策などについて解説しています。更に、日本企業の留意点についても体験談を交えて解説します。

### 8. アジアでの知財を巡る諸問題と実務対応

アジアにおいては、知財権の取得上の諸問題、無断出願、権利侵害、模倣問題など、様々な知的財産を巡る諸問題が日常的に発生しております。この諸問題をクローズアップし企業の実務対応について、事例および経験談を交えて解説します。

#### ■R10「アジアの特許制度」 募集スケジュール

(1)本研修の募集開始時期は、6月以降を予定しております。

定例コースの募集開始時期と異なりますので、ご注意ください。

(2)研修の詳細については、別途ご案内いたします。

(ご案内時期は5月下旬を予定)

会員代表宛て郵送、ホームページ、メールマガジンで随時ご案内いたします。